

いぐさ茎色診断による第1回追肥（ならし肥）開始時期							
<p>【要約】 いぐさのならし肥は、4月に茎色が早くから落ちる場合、水稲用 カースケール値で 4.5程度になった時に施用する。また、茎色が 4.5以上で推移する場合のならし肥は、県施肥基準どおり5月上旬に施用する。</p>							
筑後分場・い草栽培研究室					連絡先	0944-32-1029	
部会名	農産	専門	栽培	対象	工芸作物類	分類	普及

【背景・ねらい】

近年、外国産のい製品の輸入が急増している。これに対抗して、本県産いぐさの需要拡大を図るためには、高品質のい製品を生産する必要があり、良質いぐさの生産が不可欠となる。そこで、生育診断を行うことにより、良質いぐさの安定生産のための適切な肥培管理を明らかにする必要がある。

いぐさ普通刈栽培での**県施肥基準**では、第1回追肥（**ならし肥**）開始時期は5月上旬となっている。しかし、年次によっては茎色が早くから落ちて、5月上旬まで待てない場合がある。そこで、このような場合の対策として、水稲用 **カースケール**を用いて4月上旬から下旬の茎色を測定し、**ならし肥**の施用時期を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

①いぐさの茎色は、4月中旬から落ち始めるが、落ち方の程度には年次間や圃場間に差異があり、主に3つのパターン（A、B、C）に分けられる（図1）。

②茎色が早くから落ちる場合（**パターンA**、**パターンB**）の**ならし肥**は、**カースケール**値が4.5程度になった時に施用すると長茎重が増加する（図2）。

③茎色が4.5以上で推移する場合（**パターンC**）の**ならし肥**は、**県施肥基準**どおり5月上旬に施用すると長茎重が安定する（図2）。

【成果の活用面・留意点】

いぐさ栽培指導資料に登載し、いぐさ普通刈栽培の第1回追肥（**ならし肥**）開始時期の判断基準として活用する。

[具体的データ]

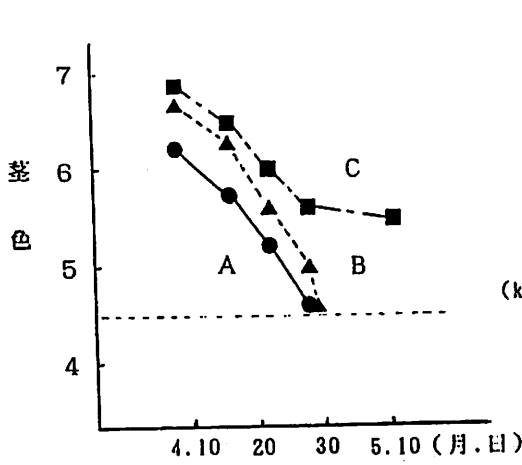


図1 茎色の推移のパターン

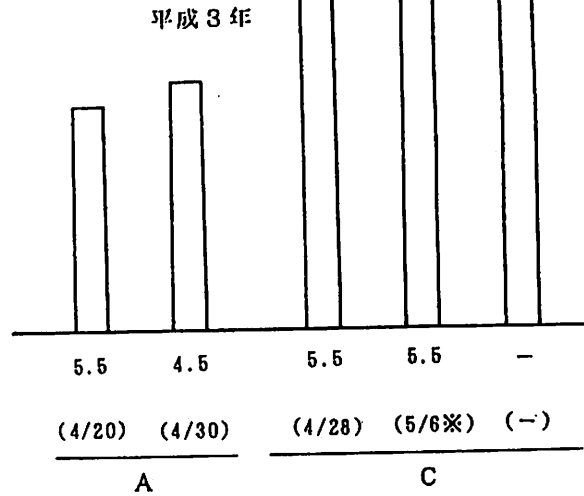
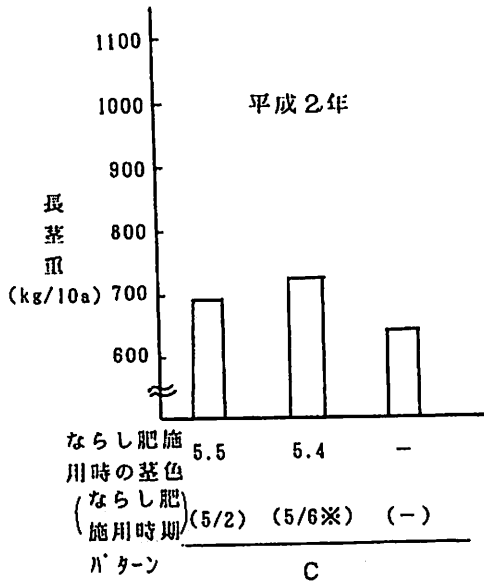
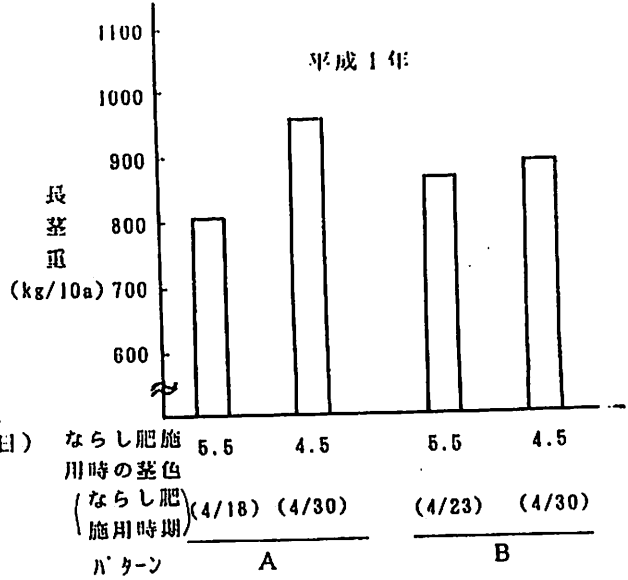


図2 追肥（ならし肥）施用時期の茎色と収量

注) ①*は施肥基準どおりならし肥を施用
②-はならし肥を省略

[その他]

研究課題名：生育診断による安定栽培法

予算区分：経常

研究期間：平成4年度（平成1～3年）

研究担当者：松井 洋、森藤信治、大隈充子、住吉 強

発表論文等：平成1～3年度筑後分場 い草栽培研究室 いぐさに関する試験成績書